

第2章 岩沼市水道事業の沿革

第2章 岩沼市水道事業の沿革

第1節 岩沼市の概要

1) 地勢

本市は、宮城県の県庁所在地である仙台市の南 17.6km に位置しています。市域は東西約 13km、南北 10km、総面積 60.45km² を有し、図 2.1 に示すように西部の山岳地域から東部の太平洋岸地域に至るまでなだらかに広がった平野が展開し、南部の市界には、阿武隈川が東流し仙台湾に流入しています。

また、東北本線と常磐線の分岐点、国道 4 号・6 号の合流点であり、さらに東北地方の国際化の玄関口となる仙台空港が所在するなど、交通の要衝となっています。

かつては「門前町」「宿場町」として栄えてきましたが、その後、「臨空工業地帯」の一角としての立地的優位性から大小の企業が進出し、工業都市の性格も加わり商工業都市として発展し、昭和 46 年（1971）に市制が施行されました。

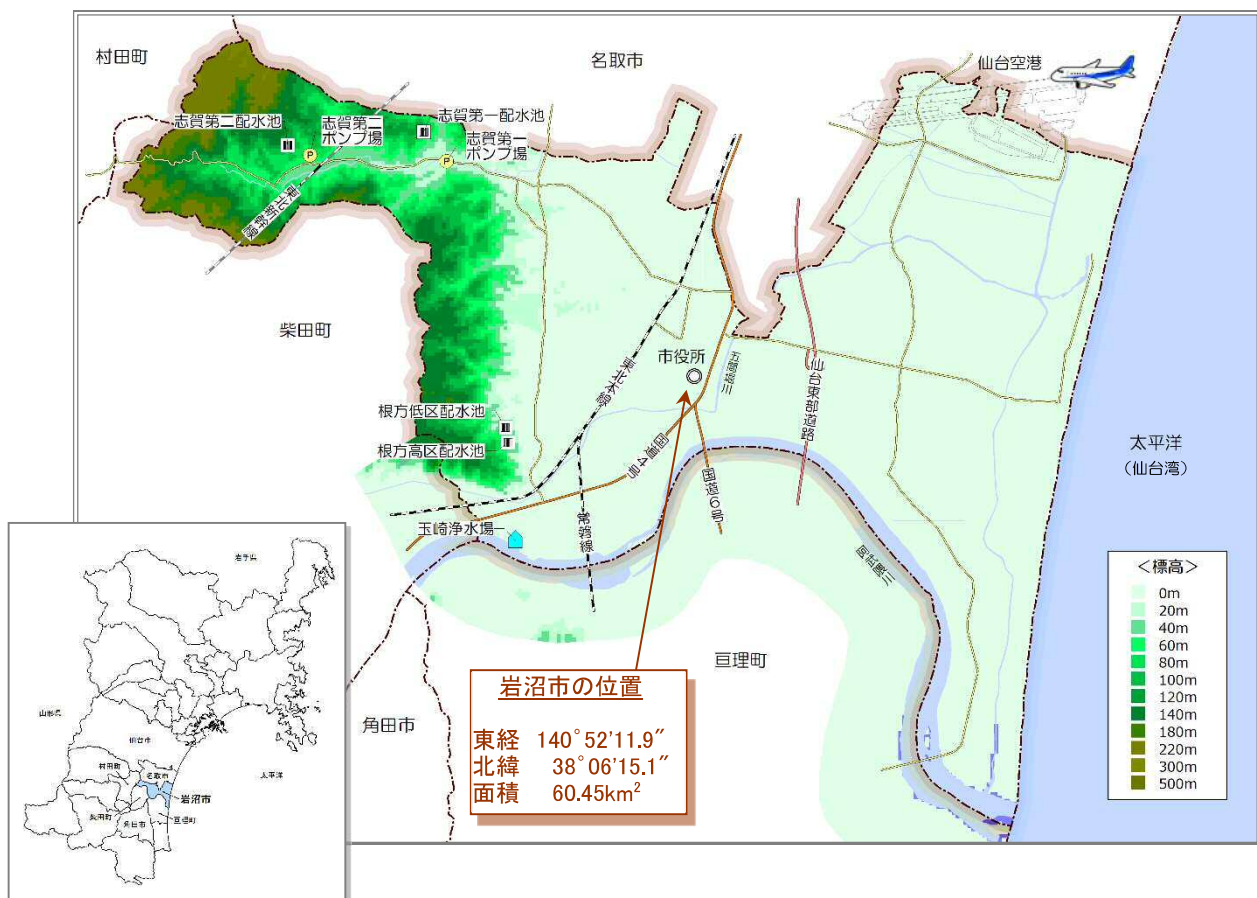


図 2.1 岩沼市の標高分布

2) 自然条件

本市の気候は太平洋岸式気候で、太平洋を北上する黒潮の影響により、宮城県内においても冬季は比較的温暖な地域です。

表 2.1 に示すように、平成 20 年（2008）から平成 29 年（2017）までの 10 年間の気象統計を見ると、平均気温は 12.7 度で、平均降水量は約 1,100mm となっています。

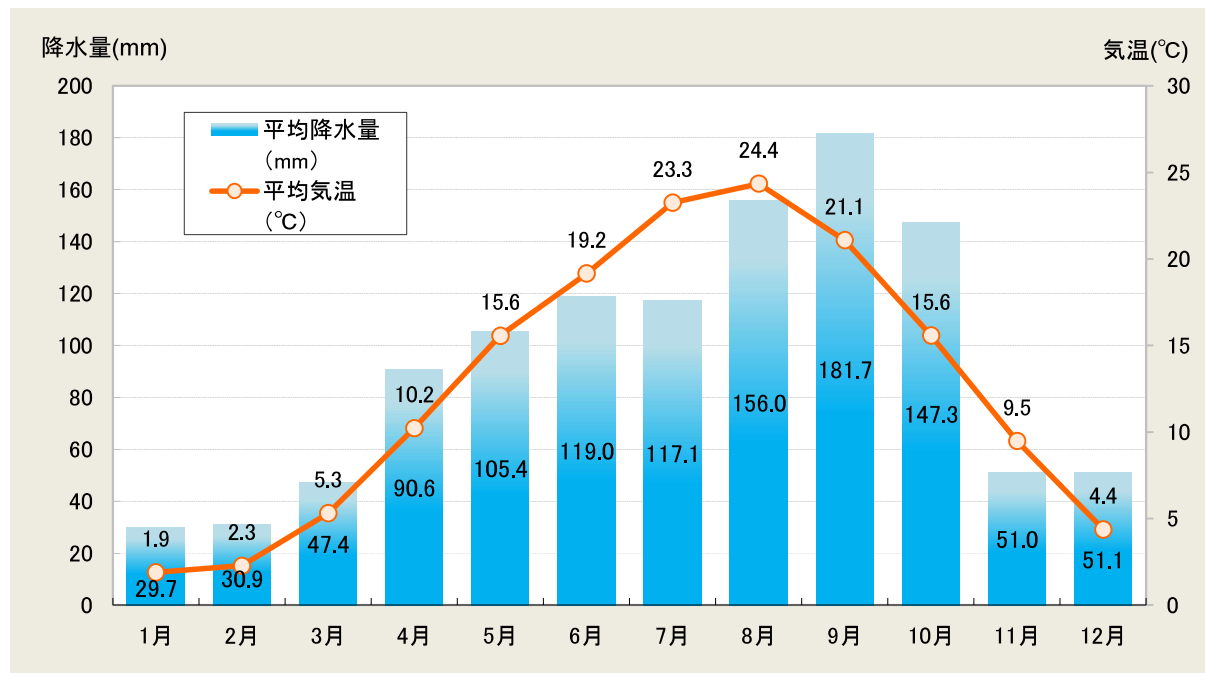


図 2.2 月別での気温と降水量（H20～29年の平均値）
（平成 29 年度版岩沼市統計書）

表 2.1 月別での気温と降水量（H20～29年の平均値）
（平成 29 年度版岩沼市統計書）

H20～29年 月別	平均気温 (°C)	平均降水量 (mm)
1月	1.9	29.7
2月	2.3	30.9
3月	5.3	47.4
4月	10.2	90.6
5月	15.6	105.4
6月	19.2	119.0
7月	23.3	117.1
8月	24.4	156.0
9月	21.1	181.7
10月	15.6	147.3
11月	9.5	51.0
12月	4.4	51.1
10年平均	12.7	1,127.0

出典：平成29年度版岩沼市統計書

3) 社会条件

【1 人口】

「平成 29 年度版岩沼市統計書」の人口及び一世帯当り人口（各年 9 月末日現在値）を基に、本市における人口の推移について整理します。

行政区域内人口は、平成 29 年（2017）で 44,275 人となっており、過去の推移をみると、平成 25 年（2013）からわずかながら増加傾向にありましたが、平成 29 年には再び減少しています。

世帯数は常に増加しており、平成 29 年（2017）で 17,516 世帯となっています。人口が減少し世帯数が増加していることで一世帯当り人口は減少傾向にあります。

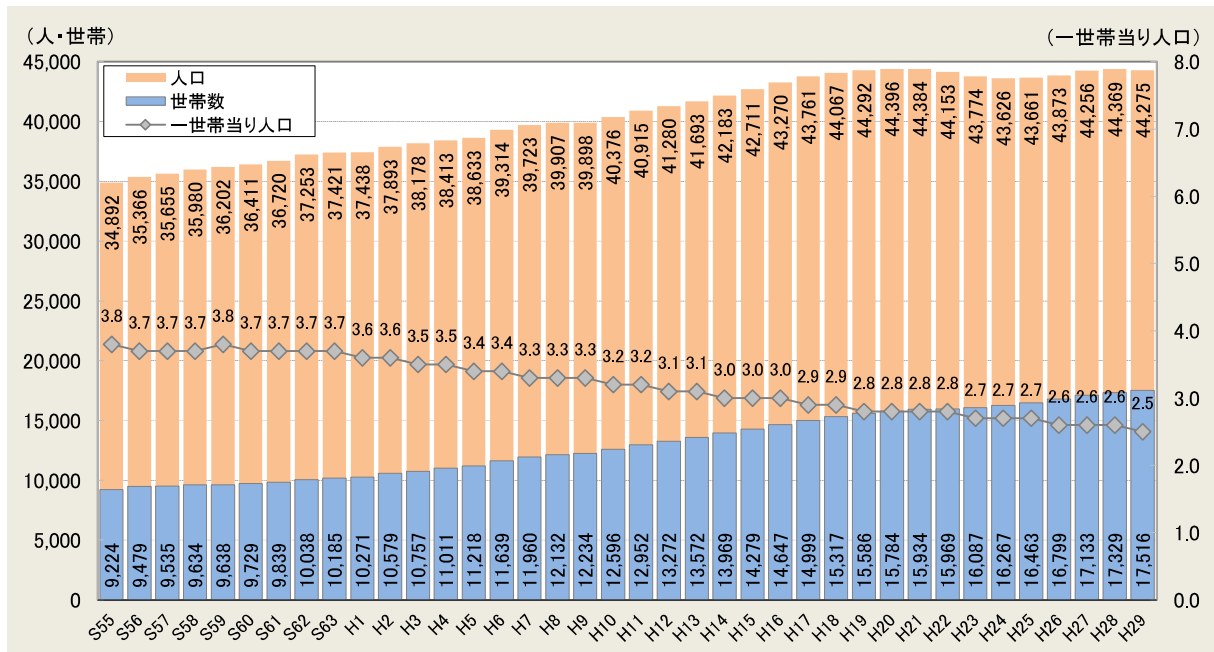


図 2.3 人口と世帯の推移（平成 29 年度版岩沼市統計書）

本市の人口年齢構成比は、平成 27 年（2015）国勢調査のデータによると、高齢人口（65 歳以上）は 23.4%で、年少人口（15 歳未満）は 14.5%となっています。宮城県の高齢人口 25.7%、年少人口 12.5%と比較すると、高齢化は県内比ほど進んでいないと言えます。

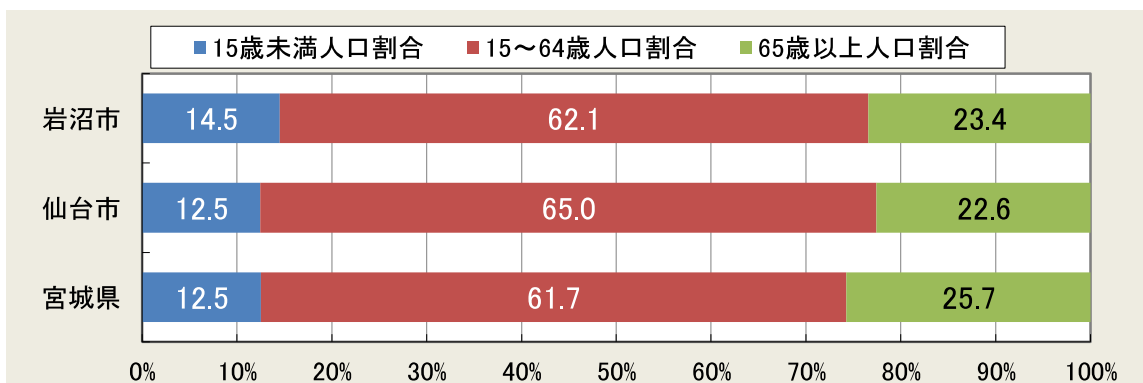


図 2.4 人口年齢構成比（H27 国勢調査）

【2 産業】

本市の就業者の産業別分類は、平成 27 年（2015）国勢調査のデータによると、第3次産業が最も多く 69.6%、次いで第2次産業 28.0%、第1次産業 2.4%の順となっています。

県内の構成比と比較すると、第2次産業の割合が若干多くなっています。

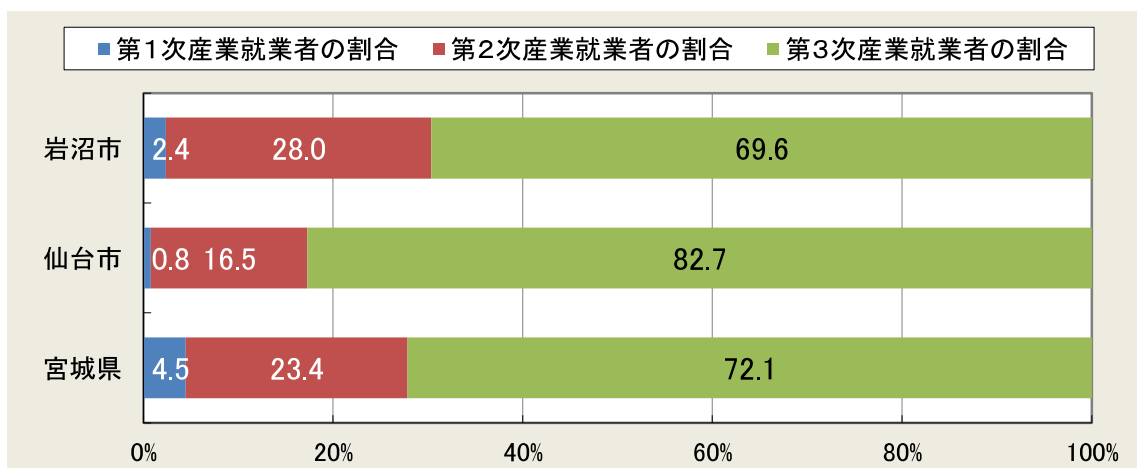


図 2.5 産業別人口構成比（H27 国勢調査）

第2節 水道事業の沿革

岩沼市水道事業は、昭和 28 年に当時の岩沼町において、阿武隈川の伏流水を水源とした計画給水人口 13,000 人、計画一日最大配水量 2,405m³/日を目標として創設され、吹上浄水場より旧市街地を中心に、昭和 30 年 3 月 1 日に給水開始したのが始まりです。

その後、昭和 36 年に原地区、押分地区及び下野郷地区へ給水区域を拡張し、計画給水人口 15,000 人、計画一日最大配水量 3,000m³/日への変更認可を得て第 1 次拡張事業に着手しました。

昭和 41 年には早股地区を給水区域に編入し、計画給水人口 15,500 人、計画一日最大配水量 3,100m³/日とした第 2 次拡張事業を実施しました。

その後、人口の増加と生活水準の向上に伴い、既存水源では対応ができなくなり、新たに水源を阿武隈川の表流水に求め、昭和 42 年に千貫及び玉浦地区の一部を除いた全行政区域と一部名取市の仙台空港を加えた、将来の計画給水人口 43,000 人、計画一日最大配水量 15,050m³/日とした第 3 次拡張事業を実施し、玉崎浄水場を建設するとともに配水管の整備拡充を行い、昭和 44 年 12 月に給水を開始しました。これにより、昭和 30 年から給水を続けてきた吹上浄水場を廃止しました。

昭和 55 年には、仙台湾臨海地域の新産都市指定による工場の進出や宅地造成による市街地の拡大と都市環境の整備による水需要のさらなる増加に対応するため、セヶ宿ダムを水源とする県営仙南・仙塩広域水道用水供給事業から一日最大 21,800m³/日を受水することとし、全行政区域と仙台空港へ給水するため計画給水人口 55,740 人、計画一日最大配水量 36,850m³/日とした第 4 次拡張事業を実施しました。

平成 23 年 3 月の東日本大震災において大きな損害を受けましたが、復旧・復興事業を推進し、安全な水を安定して供給する体制を整えています。

表 2.2 岩沼市水道事業の沿革

事業名	認可年月日	計画給水人口 計画一日最大配水量	内容
岩沼町水道 【創設】	昭和 28 年 3 月	13,000 人 2,405m ³ /日	阿武隈川の伏流水を水源とした吹上浄水場を建設し、昭和 30 年 3 月給水開始。給水区域は岩沼町中央部。
岩沼町水道 【第1次拡張】	昭和 36 年 12 月	15,000 人 3,000m ³ /日	第 2 取水井及び除マンガン装置の設置。
岩沼町水道 【第2次拡張】	昭和 41 年 12 月	15,500 人 3,100m ³ /日	給水区域の拡張。
岩沼町水道 【第3次拡張】	昭和 42 年 12 月	43,000 人 15,050m ³ /日	阿武隈川の表流水を水源とした玉崎浄水場を建設。岩沼町の全域を給水区域とした。昭和 44 年 12 月吹上浄水場の廃止。
岩沼市水道 【第4次拡張】	昭和 55 年 3 月	55,740 人 36,850m ³ /日	根方配水池の建設。配水管の改良事業。志賀地区無水源簡易水道、昭和 56 年給水開始。